

四半期報告書

(第123期第1四半期)

自 2023年1月1日

至 2023年3月31日

キヤノン株式会社

(E02274)

本書は四半期報告書を金融商品取引法第 27 条の 30 の 2 に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して提出したデータに、目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	7
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	10
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	10
(5) 大株主の状況	10
(6) 議決権の状況	11
2 役員の状況	11
第4 経理の状況	12
1 四半期連結財務諸表	13
2 その他	39
第二部 提出会社の保証会社等の情報	39
[四半期レビュー報告書]	40

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年5月11日
【四半期会計期間】	第123期第1四半期（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）
【会社名】	キヤノン株式会社
【英訳名】	CANON INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
【本店の所在の場所】	東京都大田区下丸子三丁目30番2号
【電話番号】	03 (3758) 2111
【事務連絡者氏名】	連結経理部長 谷野 幸穂
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区下丸子三丁目30番2号
【電話番号】	03 (3758) 2111
【事務連絡者氏名】	連結経理部長 谷野 幸穂
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	第122期
会計期間	2022年 1月1日から 2022年 3月31日まで	2023年 1月1日から 2023年 3月31日まで	2022年 1月1日から 2022年 12月31日まで
売上高 (百万円)	879,350	971,125	4,031,414
税引前四半期(当期)純利益 (百万円)	67,697	87,534	352,440
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	45,975	56,410	243,961
四半期包括利益(損失) 又は包括利益(損失) (百万円)	160,465	95,822	476,959
株主資本 (百万円)	2,971,967	3,142,579	3,113,105
純資産 (百万円)	3,198,238	3,380,681	3,349,030
総資産 (百万円)	4,944,822	5,258,740	5,095,530
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (円)	43.97	55.56	236.71
希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (円)	43.96	55.53	236.63
株主資本比率 (%)	60.1	59.8	61.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	15,424	73,609	262,603
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△35,051	△38,124	△180,820
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	38,230	75,733	△146,844
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	432,362	477,700	362,101

(注) 1 当社の四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（以下「米国会計基準」という。）に基づいて作成されております。

2 売上高には、消費税等を含んでおりません。

2【事業の内容】

当社は米国会計基準によって四半期連結財務諸表を作成しており、関係会社についても当該会計基準の定義に基づいて開示しております。第2「事業の状況」においても同様であります。

当グループ（2023年3月31日現在、当社及びその連結子会社330社、持分法適用関連会社10社で構成）は、プリンティング、イメージング、メディカル、インダストリアル、その他及び全社の分野において、開発、生産から販売、サービスにわたる事業活動を営んでおります。

当第1四半期連結累計期間において、当グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した重要な事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、昨年から続く金融当局のインフレ抑制策による景気の減速懸念がありました。一方でコロナ禍からの回復に伴い個人消費は底堅く推移しました。地域別に見ますと、米国では、金融引締め策にも関わらず労働市場が堅調に推移するなど、緩やかな景気の回復が続きました。欧州でも金利上昇に伴う景気の下押し圧力が強まりましたが、輸出に底堅さが見られるなど緩やかに持ち直しました。中国では、ゼロコロナ政策の解除を機に内需の持ち直しが見られました。また、その他の新興国については、インドや東南アジアを中心に景気回復基調が継続しました。わが国では、コロナ禍からの経済活動の正常化を受け、景気は緩やかに回復しました。

このような状況の中、当社関連市場においては、これまでビジネスの制約要因となっていた部品不足や物流逼迫による供給不足が解消に向かったことで、堅調に推移しました。製品別に見ますと、オフィス向け複合機は、供給不足が解消に向かうとともに需要も堅調に推移しました。インクジェットプリンターは在宅需要の一巡、レーザープリンターは企業の投資抑制により需要が伸び悩みました。カメラ市場は、ミラーレスカメラを中心に底堅く推移しました。医療機器は、一部の地域で昨年までのコロナ需要の反動があり、市場が縮小しているものの、近年停滞していた大型機器への投資に回復の兆しが見えてきました。半導体製造装置市場は、メモリ向けの需要は弱含みましたが、パワーデバイス、アナログデバイス、センサー向けなどを中心に投資が堅調に推移しました。FPD製造装置市場は、パネルメーカーの投資延期による影響で縮小しました。

当第1四半期連結累計期間の平均為替レートにつきましては、米ドルが前年同四半期連結累計期間比で約16円円安の132.47円、ユーロが前年同四半期連結累計期間比で約12円円安の142.10円となりました。

経営指標

(億円)

	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	増減率 (%)
売上高	8,794	9,711	10.4%
売上総利益	3,944	4,540	15.1%
営業費用	3,183	3,695	16.1%
営業利益	761	845	10.9%
営業外収益及び費用	△84	31	-
税引前四半期純利益	677	875	29.3%
当社株主に帰属する四半期純利益	460	564	22.7%

1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

(円)

基本的	43.97	55.56	26.4%
希薄化後	43.96	55.53	26.3%

当第1四半期連結累計期間は、上述したビジネス環境が改善に向かったことに加え、インフレによるコストアップを製品価格に反映したことや円安による好転影響もあり、売上高は前年同四半期連結累計期間比10.4%増の9,711億円となりました。売上総利益率は、昨年から発売した競争力の高い製品が寄与してプロダクトミックスが改善したことや円安による増益効果により、前年同四半期連結累計期間を1.9ポイント上回る46.8%となり、売上総利益は前年同四半期連結累計期間比15.1%増の4,540億円となりました。営業費用は、効率性を重視した経営体質を維持しながらも、売上増に向けた要員増強及び販売関連費用を増加させたことに加え、円安による外貨建て

の営業費用の増加も影響し、前年同四半期連結累計期間比16.1%増の3,695億円となりました。その結果、営業利益は前年同四半期連結累計期間比10.9%増の845億円となりました。営業外収益及び費用は、有価証券評価益や外貨建て債務から生じた為替差損の好転などにより、前年同四半期連結累計期間比で115億円好転し、31億円の収益となりました。これらの結果、税引前四半期純利益は前年同四半期連結累計期間比29.3%増の875億円、当社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期連結累計期間比22.7%増の564億円となりました。

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期連結累計期間に比べ11円59銭増の55円56銭となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。セグメント情報に関する詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 注19 セグメント情報」をご参照ください。

プリンティングビジネスユニット

(億円)

	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	増減率 (%)
オフィス	1,939	2,328	20.1%
プロシューマ	2,390	2,370	△ 0.8%
プロダクション	732	869	18.7%
外部顧客向け売上高合計	5,061	5,567	10.0%
セグメント間取引	11	14	27.7%
売上高合計	5,072	5,582	10.0%
売上原価及び営業費用	4,546	5,075	11.6%
営業利益	526	506	△ 3.7%
税引前四半期純利益	554	531	△ 4.2%

プリンティングビジネスユニットでは、オフィス向け複合機は、供給不足からの回復が進み、またiR-ADV DX C5800シリーズが好評を博すなど販売が堅調に推移し、販売台数は前年同四半期連結累計期間を大きく上回りました。インクジェットプリンターは、在宅需要の一巡により販売台数は前年同四半期連結累計期間を下回りました。レーザープリンターは、企業の投資抑制により販売台数は前年同四半期連結累計期間を下回りました。プロダクション市場向け機器は、オンデマンドプリンターであるimagePRESS V900/V1000シリーズが好調に推移するなど、販売台数は前年同四半期連結累計期間を上回りました。これらの結果、当ユニットの売上高は、前年同四半期連結累計期間比10.0%増の5,582億円となりました。税引前四半期純利益は、消耗品の販売が伸び悩んだ影響等により、前年同四半期連結累計期間比4.2%減の531億円となりました。

イメージングビジネスユニット

(億円)

	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	増減率 (%)
カメラ	1,013	1,100	8.5%
ネットワークカメラ他	557	824	48.0%
外部顧客向け売上高合計	1,570	1,924	22.5%
セグメント間取引	2	1	△ 71.6%
売上高合計	1,572	1,924	22.4%
売上原価及び営業費用	1,438	1,552	7.9%
営業利益	134	373	178.8%
税引前四半期純利益	137	375	173.1%

イメージングビジネスユニットでは、レンズ交換式デジタルカメラはミラーレスカメラへのシフトに伴い、一眼レフカメラの販売台数は減少しましたが、昨年発売したフルサイズミラーレスカメラのEOS R6 Mark IIやAPS-C

サイズミラーレスカメラの新製品であるEOS R7とEOS R10が好評を博しました。レンズは、全体の販売台数は前年同四半期連結累計期間を下回りましたが、RFレンズが好調に推移しました。ネットワークカメラは、製品の供給量が回復したに加え、用途の多様化を背景に販売活動を強化し、大幅な増収となりました。また、業務用ビデオカメラの販売も堅調に推移し、制作の効率化や省人化ニーズに応えるIPリモートカメラ事業も順調に販売を伸ばしました。これらの結果、当ユニットの売上高は、前年同四半期連結累計期間比22.4%増の1,924億円となりました。税引前四半期純利益は、昨年から発売した競争力の高い製品が堅調に推移したことや、生産拠点の閉鎖に伴う一時的な費用を昨年に計上したこともあり、前年同四半期連結累計期間比173.1%増の375億円となりました。

メディカルビジネスユニット

(億円)

	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	増減率 (%)
外部顧客向け売上高合計	1,181	1,309	10.8%
セグメント間取引	1	2	108.4%
売上高合計	1,182	1,311	10.9%
売上原価及び営業費用	1,119	1,242	11.0%
営業利益	63	69	8.8%
税引前四半期純利益	64	69	7.9%

メディカルビジネスユニットでは、主に欧州地域での販売が好調に推移しました。米国では、金利上昇や医療スタッフ不足などに起因する医療機関の設備投資の先送りなどがあったものの、その他海外地域及び国内向けと同様、前年同四半期連結累計期間の売上を上回りました。結果として当ユニットの売上高は前年同四半期連結累計期間比10.9%増の1,311億円となりました。税引前四半期純利益は、材料費やエネルギーコスト、人件費の高騰など費用増加の影響があったものの、大型機器やサービスの売上拡大に伴い収益性が改善したことにより、前年同四半期連結累計期間比7.9%増の69億円となりました。

インダストリアルビジネスユニット

(億円)

	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	増減率 (%)
光学機器	488	400	△ 17.9%
産業機器	178	184	2.7%
外部顧客向け売上高合計	666	584	△ 12.4%
セグメント間取引	18	37	99.9%
売上高合計	685	621	△ 9.4%
売上原価及び営業費用	563	546	△ 2.9%
営業利益	122	74	△ 39.2%
税引前四半期純利益	123	75	△ 38.8%

インダストリアルビジネスユニットでは、半導体露光装置は、引き続き幅広い分野において好調に推移しており、販売台数を大きく伸ばした前年同四半期連結累計期間並みの水準となりました。FPD露光装置は、パネル市況悪化に伴うパネルメーカーの投資延期により、販売台数は前年同四半期連結累計期間を下回りました。これらの結果、当ユニットの売上高は、前年同四半期連結累計期間比9.4%減の621億円、税引前四半期純利益は、前年同四半期連結累計期間比38.8%減の75億円となりました。

②財政状態の状況

(億円)

	第122期 前連結会計年度 2022年12月31日	第123期 第1四半期 連結会計期間 2023年3月31日	増減
資産合計	50,955	52,587	1,632
負債合計	17,465	18,780	1,315
株主資本合計	31,131	31,426	295
非支配持分	2,359	2,381	22
純資産合計	33,490	33,807	317
負債及び純資産合計	50,955	52,587	1,632
株主資本比率 (%)	61.1%	59.8%	△ 1.3%

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び現金同等物や棚卸資産が増加したこと等により、前連結会計年度末から1,632億円増加して5兆2,587億円となりました。棚卸資産は、第2四半期以降の販売に向けた在庫の増加や円安の影響等により増加しました。負債は、短期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末から1,315億円増加して1兆8,780億円となりました。純資産は、当社株主への配当による減少の一方、当社株主に帰属する四半期純利益の積み増しに加え、円安によるその他の包括利益累計額の増加などにより、前連結会計年度末から317億円増加して3兆3,807億円となりました。

これらの結果、株主資本比率は、前連結会計年度末から1.3ポイント低下し59.8%となりましたが、引き続き財務健全性は高い水準となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

(億円)

	第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	154	736	582
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 351	△ 381	△ 30
フリーキャッシュ・フロー	△ 196	355	551
財務活動によるキャッシュ・フロー	382	757	375
為替変動の現金及び現金同等物への影響額	124	44	△ 80
現金及び現金同等物の増減	310	1,156	846
現金及び現金同等物の期首残高	4,014	3,621	△ 393
現金及び現金同等物の期末残高	4,324	4,777	453

当第1四半期連結累計期間の営業キャッシュ・フローは、大幅な増益と昨年増加した売掛金の回収が進んだことなどにより、前年同四半期連結累計期間比582億円増加し736億円の収入となりました。投資キャッシュ・フローは、海外支店の売却により一時的に収入が増加した昨年に対して、固定資産売却が減少したことなどにより、前年同四半期連結累計期間から30億円増加し381億円の支出となりました。当社は、営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを控除した純額をフリーキャッシュ・フローと定義しており、当第1四半期連結累計期間のフリーキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間比で551億円増加し、355億円の収入となりました。

財務キャッシュ・フローは、期末配当を増配したことで配当金の支払いが増加しましたが、必要な運転資金の増加に伴う短期借入金の増加などにより前年同四半期連結累計期間から375億円増加し、757億円の収入となりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響分を合わせて前連結会

計年度末から1,156億円増加し、4,777億円となりました。

(3) 米国会計基準以外の財務指標 (Non-GAAP財務指標)

当社は、米国会計基準に基づき財務情報を報告しております。

これに加えて、当社は米国会計基準以外の財務指標 (Non-GAAP財務指標) であるフリーキャッシュ・フローを開示情報に含めております。

この指標は、当社の営業活動と投資活動を踏まえており、投資家の方々が、当社の現在の流動性や財務活動における資金の使用可能性を理解するうえで重要な指標と考えております。

なお、最も直接的に比較可能な米国会計基準に基づき作成された指標とフリーキャッシュ・フローとの照合調整表は以下のとおりです。

	(億円)
	第123期第1四半期 連結累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	736
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 381
フリーキャッシュ・フロー	355

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当第1四半期連結累計期間において、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定に重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は、765億円です。

(7) 設備の状況

① 主要な設備の状況

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の異動はありません。

② 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設について完成したものは以下のとおりです。なお、重要な設備の除却等の計画はありません。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	完成年月
キャノン株式会社	神奈川県平塚市	その他及び全社	工場棟	2023年2月

3 【経営上の重要な契約等】

当社の完全子会社であるキャノンメディカルシステムズ株式会社は、株式会社レゾナックより、子会社であるミナリスメディカル株式会社（その子会社であるMinaris Medical (Shanghai) Co., Ltd.を含む）及び Minaris Medical America, Inc. の買収を目的とした株式譲渡契約を、2023年3月31日に締結いたしました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	3,000,000,000
計	3,000,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数（株） (2023年3月31日)	提出日現在発行数（株） (2023年5月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,333,763,464	1,333,763,464	東京、名古屋、福岡、 札幌	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	1,333,763,464	1,333,763,464	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

決議年月日	2023年2月10日
付与対象者の区分及び人数（名）	執行役員 1 計 1
新株予約権の数（個） ※	93
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数（株） ※	普通株式 9,300（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円） ※	当該各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの行使価額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。
新株予約権の行使期間 ※	自 2023年3月28日 至 2053年3月27日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円） ※	発行価格 2,446（注）2 資本組入額 1,223（注）3
新株予約権の行使の条件 ※	原則として、(i) 当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日（10日目が休日に当たる場合には翌営業日）を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものとし、また、(ii) 違法若しくは不正な職務執行、善管注意義務・忠実義務に抵触する行為、またはこれらに準ずる行為があると認められるときは、取締役会の決議によって、該当する新株予約権者の行使しうる新株予約権の数を制限することができ、この場合、当該新株予約権者は、かかる制限を超えて新株予約権を行使することができないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項 ※	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会決議による承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 ※	（注）4

※ 新株予約権証券の発行時（2023年3月27日）における内容を記載しております。

- (注) 1 新株予約権の目的である株式の種類は、当社普通株式とし、新株予約権の目的である株式の数（以下、「付与株式数」という）は、新株予約権1個当たり100株とする。
- ただし、新株予約権を割り当てる日（以下、「割当日」という）以降、当社が、当社普通株式の株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ）または株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数＝調整前付与株式数×株式分割または株式併合の比率

また、前記のほか、割当日以降、当社が合併または会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

- 2 発行価格は、新株予約権の行使時の払込金額（1株当たり1円）と割当日における新株予約権の公正価額を合算する。
- 3 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
- 4 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という）をする場合には、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生じる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生じる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生じる日および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。
 - a. 交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
 - b. 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
 - c. 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記（注）1に準じて決定する。
 - d. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に上記cに従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
 - e. 新株予約権を行使することができる期間
新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
 - f. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
 - イ. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
 - ロ. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記イ.記載の資本金等増加限度額から上記イ.に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
 - g. 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

h. 新株予約権の行使の条件

イ. 新株予約権者は、当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日（10日目が休日に当たる場合には翌営業日）を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものとする。

ロ. 違法若しくは不正な職務執行、善管注意義務・忠実義務に抵触する行為、またはこれらに準ずる行為があると認められるときは、取締役会の決議によって、該当する新株予約権者の行使しうる新株予約権の数を制限することができ、この場合、当該新株予約権者は、かかる制限を超えて新株予約権を行使することができないものとする。

i. 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき、当社株主総会で承認されたとき（株主総会決議が不要の場合は当社の取締役会決議がなされたとき）は、取締役会が別途定める日に、当社は、新株予約権を無償で取得することができる。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (株)	発行済株式総数 残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2023年1月1日 ～2023年3月31日	—	1,333,763,464	—	174,762	—	306,288

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（2022年12月31日）に基づく株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 318,250,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,014,173,600	10,141,736	同上
単元未満株式	普通株式 1,339,864	—	同上
発行済株式総数	1,333,763,464	—	—
総株主の議決権	—	10,141,736	—

(注) 「単元未満株式」の中には、当社保有の自己株式が次のとおり含まれております。
自己株式 96株

② 【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
キャノン（株）	東京都大田区下丸子 三丁目30番2号	318,250,000	—	318,250,000	23.86
計	—	318,250,000	—	318,250,000	23.86

2 【役員の状況】

(1) 取締役・監査役の状況

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動及び役職の異動はありません。

(2) 執行役員の状況

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における執行役員の異動及び役職の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第95条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年1月1日から2023年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び現金同等物	注1, 17, 18	362, 101		477, 700	
2. 短期投資	注2, 17	10, 905		7, 874	
3. 売上債権	注3	636, 803		593, 798	
4. 棚卸資産	注4	808, 312		858, 832	
5. 短期リース債権	注6	137, 038		140, 441	
6. 前払費用及び その他の流動資産	注11, 13, 17	215, 990		208, 006	
7. 信用損失引当金	注3, 6	△15, 235		△15, 072	
流動資産合計		2, 155, 914	42.3	2, 271, 579	43.2
II 長期債権	注15	12, 996	0.3	11, 628	0.2
III 投資	注2, 17	65, 128	1.3	68, 484	1.3
IV 有形固定資産	注5	1, 035, 065	20.3	1, 055, 064	20.1
V オペレーティングリース 使用権資産	注14	117, 843	2.3	116, 474	2.2
VI 無形固定資産		280, 995	5.5	272, 924	5.2
VII のれん		972, 626	19.1	981, 228	18.7
VIII 長期リース債権	注6	279, 332	5.5	292, 443	5.6
IX その他の資産		179, 297	3.5	192, 555	3.7
X 信用損失引当金	注6	△3, 666	△0.1	△3, 639	△0.2
資産合計		5, 095, 530	100.0	5, 258, 740	100.0

区分	注記 番号	前連結会計年度 (2022年12月31日)		当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 短期借入金及び1年以内に 返済する長期債務合計	注8, 16	296,384		436,795	
金融サービスに係る短期 借入金		41,200		41,400	
その他の短期借入金及び 1年以内に返済する長期 債務		255,184		395,395	
2. 買入債務	注7	355,930		364,531	
3. 未払法人税等		48,414		26,986	
4. 未払費用	注15	365,847		356,682	
5. 短期オペレーティング リース負債	注14	33,281		33,815	
6. その他の流動負債	注 11, 13, 17	265,497		289,471	
流動負債合計		1,365,353	26.8	1,508,280	28.7
II 長期債務	注16	2,417	0.0	2,359	0.0
III 未払退職及び年金費用		189,215	3.7	186,902	3.6
IV 長期オペレーティング リース負債	注14	85,331	1.7	83,526	1.6
V その他の固定負債	注11	104,184	2.1	96,992	1.8
負債合計		1,746,500	34.3	1,878,059	35.7
(純資産の部)					
I 株主資本	注9				
1. 資本金		174,762	3.4	174,762	3.3
(発行可能株式総数)		(3,000,000,000)		(3,000,000,000)	
(発行済株式総数)		(1,333,763,464)		(1,333,763,464)	
2. 資本剰余金		404,838	7.9	404,861	7.7
3. 利益剰余金					
利益準備金		64,509		64,628	
その他の利益剰余金		3,664,735		3,660,095	
利益剰余金合計		3,729,244	73.3	3,724,723	70.9
4. その他の包括利益 (損失) 累計額	注10	62,623	1.2	96,597	1.8
5. 自己株式		△1,258,362	△24.7	△1,258,364	△23.9
(自己株式数)		(318,250,096)		(318,251,026)	
株主資本合計		3,113,105	61.1	3,142,579	59.8
II 非支配持分	注9	235,925	4.6	238,102	4.5
純資産合計	注9	3,349,030	65.7	3,380,681	64.3
負債及び純資産合計		5,095,530	100.0	5,258,740	100.0

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

【四半期連結損益計算書】

区分	注記 番号	前第1四半期 連結累計期間 (2022年1月1日から 2022年3月31日まで)		当第1四半期 連結累計期間 (2023年1月1日から 2023年3月31日まで)	
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高					
1. 製品売上高		695,911		764,180	
2. サービス売上高		183,439		206,945	
合計	注 6, 10, 11, 13	879,350	100.0	971,125	100.0
II 売上原価					
1. 製品売上原価		397,631		417,844	
2. サービス売上原価		87,327		99,271	
合計	注14, 18	484,958	55.1	517,115	53.2
売上総利益		394,392	44.9	454,010	46.8
III 営業費用					
1. 販売費及び一般管理費	注 10, 14, 18	246,915	28.1	293,037	30.2
2. 研究開発費		71,337	8.1	76,498	7.9
合計		318,252	36.2	369,535	38.1
営業利益		76,140	8.7	84,475	8.7
IV 営業外収益及び費用					
1. 受取利息及び配当金		608		2,395	
2. 支払利息		△234		△330	
3. その他－純額	注 2, 10, 13, 18	△8,817		994	
合計		△8,443	△1.0	3,059	0.3
税引前四半期純利益		67,697	7.7	87,534	9.0
V 法人税等		17,904	2.0	25,804	2.6
非支配持分控除前 四半期純利益		49,793	5.7	61,730	6.4
VI 非支配持分帰属損益		3,818	0.5	5,320	0.6
当社株主に帰属する 四半期純利益		45,975	5.2	56,410	5.8
1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	注12				
基本的		43.97円		55.56円	
希薄化後		43.96円		55.53円	

【四半期連結包括利益計算書】

		前第1四半期 連結累計期間 (2022年1月1日から 2022年3月31日まで)	当第1四半期 連結累計期間 (2023年1月1日から 2023年3月31日まで)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 非支配持分控除前四半期純利益		49,793	61,730
II その他の包括利益 (損失) -税効果調整後	注10		
1. 為替換算調整額		112,128	31,595
2. 未実現有価証券評価損益		-	24
3. 金融派生商品損益		△1,182	296
4. 年金債務調整額		△274	2,177
合計		110,672	34,092
四半期包括利益 (損失)	注9	160,465	95,822
III 非支配持分帰属四半期包括利益		4,750	5,438
当社株主に帰属する 四半期包括利益 (損失)		155,715	90,384

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

		前第1四半期連結累計期間 (2022年1月1日から 2022年3月31日まで)	当第1四半期連結累計期間 (2023年1月1日から 2023年3月31日まで)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 非支配持分控除前四半期純利益		49,793	61,730
2 営業活動によるキャッシュ・ フローへの調整			
減価償却費		54,350	52,472
固定資産売却却損益		△12,606	1,223
法人税等繰延税額		△2,553	△3,719
売上債権の減少		479	49,581
棚卸資産の増加		△54,193	△41,049
リース債権の減少(△増加)	注6	3,872	△13,175
買入債務の増加		22,098	6,885
未払法人税等の減少		△17,588	△21,727
未払費用の減少		△4,406	△13,380
未払退職及び年金費用の減少		△9,731	△6,933
その他－純額	注14	△14,091	1,701
営業活動によるキャッシュ・フロー		15,424	73,609
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 固定資産購入額	注5	△47,466	△43,314
2 固定資産売却額	注5	14,032	1,812
3 満期保有目的の有価証券償還額		1,483	-
4 有価証券購入額		△2,583	△154
5 有価証券売却額及び償還額		160	4,653
6 事業取得額 (取得現金控除後)		△1,345	-
7 その他－純額		668	△1,121
投資活動によるキャッシュ・フロー		△35,051	△38,124
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 長期債務の返済額		△474	△565
2 金融サービスに係る短期借入金の増加(△ 減少)－純額	注8	△200	200
3 その他の短期借入金の増加額－純額	注8	99,560	140,302
4 配当金の支払額		△57,517	△60,931
5 自己株式取得及び処分		△4	△2
6 その他－純額		△3,135	△3,271
財務活動によるキャッシュ・フロー		38,230	75,733
IV 為替変動の現金及び現金同等物への 影響額		12,364	4,381
V 現金及び現金同等物の純増減額		30,967	115,599
VI 現金及び現金同等物の期首残高		401,395	362,101
VII 現金及び現金同等物の期末残高		432,362	477,700

補足情報

期中支払額			
利息		241	268
法人税等		41,350	46,560

注記事項

注1 主要な会計方針についての概要

(1) 連結会計方針

当社は、1969年5月に米国市場において転換社債を発行し、米国預託証券を米国店頭市場に登録したことにより、米国1933年証券法及び米国1934年証券取引所法に基づき、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（以下「米国会計基準」という。）に基づいて作成された連結財務諸表の米国証券取引委員会への提出を開始し、それ以降、継続して年次報告書（Form 20-F）を提出しております。その後、1972年2月にナスダックに米国預託証券を登録し、2000年9月にニューヨーク証券取引所（以下「NYSE」）に上場いたしました。なお、当社は2023年2月24日にNYSEにおける米国預託証券の上場廃止の申請を行い、同年3月6日にNYSEにおける上場を廃止となりました。今後、米国証券取引委員会への登録廃止申請を行う要件を満たした時点で当該申請を行う予定であります。

当社の四半期連結財務諸表は、米国会計基準に基づいて作成しております。なお四半期報告書では、米国会計基準により要請される記載及び注記の一部を省略しております。2022年12月31日及び2023年3月31日現在の連結子会社数及び持分法適用関連会社数は以下のとおりであります。

	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
連結子会社数	330	330
持分法適用関連会社数	10	10
合計	340	340

当グループ（当社及びその連結子会社。以下、当該項目では「当社」という。）が採用している会計処理の原則及び手続並びに表示方法のうち、わが国の四半期連結財務諸表規則に準拠した場合と異なるもので主要なものは次のとおりであり、金額的に重要性のある項目については、わが国の基準に基づいた場合の税引前四半期純利益に対する影響額を併せて開示しております。

- (イ)退職給付及び年金制度に関しては、米国財務会計基準審議会会計基準書（以下「基準書」という。）715「給付－退職給付」を適用しており、保険数理計算に基づく年金費用を計上しております。その影響額は、第122期及び第123期第1四半期連結累計期間においてそれぞれ2,666百万円（利益の増加）、865百万円（利益の増加）であります。
- (ロ)新株発行費は税効果調整を行った後、資本剰余金より控除しております。
- (ハ)金融派生商品に関しては、基準書815「金融派生商品とヘッジ取引」を適用しております。
- (ニ)のれん及び耐用年数が確定できないその他の無形固定資産に関しては、基準書350「無形固定資産－のれん及びその他」を適用しており、償却を行わずに少なくとも年1回の減損の判定を行っております。
- (ホ)持分証券に関しては、基準書321「投資－持分証券」を適用しており、原則として公正価値で測定し、その変動を税引前四半期純利益に計上しております。
- (ヘ)リースに関しては、基準書842「リース」を適用しており、リース期間にわたるリース料の現在価値に基づいてオペレーティング・リース使用権資産及び負債を貸借対照表に計上し、リース費用は、リース期間にわたって定額法で認識しております。
- (ト)勘定科目の組替再表示
当社は、2022年第1四半期連結累計期間の連結キャッシュ・フロー計算書について、2023年第1四半期連結累計期間の表示方法に合わせて組み替えて表示しております。

(2) 連結の基本方針

当社の四半期連結財務諸表は、当社、当社が過半数の株式を所有する子会社、及び当社及び連結子会社が主たる受益者となる変動持分事業体の勘定を含んでおります。連結会社間の重要な債権債務及び取引は全て消去しております。

(3) 新会計基準

新たに適用した会計基準

2021年10月に、米国財務会計基準審議会(Financial Accounting Standards Board、以下「FASB」)より基準書2021-08(「顧客との契約に基づく契約資産及び契約負債の会計処理」-基準805(企業結合))が公表されました。同基準は、企業結合により取得した契約資産及び契約負債を認識及び測定するために、基準606(「顧客との契約からの収益」)の適用を要求しております。当社は、この基準を2023年1月1日より開始する連結会計年度及びその

期中会計期間より適用しております。この基準の適用が当社の経営成績及び財政状態に与える重要な影響はありません。

2022年3月に、FASBより基準書2022-02(「不良債権の再編及び組成年度別開示」-基準326(信用損失))が公表されました。同基準は、借手のローン借換え及び再編に関する開示要求事項を拡充しております。また、金融債権及びリースに対する純投資の当期直接償却総額を組成年度別に開示することを要求しております。当社は、この基準を2023年1月1日より開始する連結会計年度及びその期中会計期間より適用しております。この基準の適用が当社の経営成績及び財政状態に与える重要な影響はありません。

2022年9月に、FASBより基準書2022-04(「サプライヤー・ファイナンス・プログラム債務の開示」-基準405-50(負債-サプライヤー・ファイナンス・プログラム))が公表されました。同基準は、商品やサービスの購入に関連してサプライヤー・ファイナンス・プログラムを利用する事業体に対し、プログラムの主要な条件と会計期間末の債務に関する情報(ロールフォワードを含む)を開示することを要求しております。当社は、この基準のプログラムの主要な条件と会計期間末の債務に関する情報の開示要求について、2023年1月1日より開始する連結会計年度及びその期中会計期間に適用しております。同基準の、債務に関するロールフォワードの開示要求は、2023年12月15日以降に開始する連結会計年度に適用されます。この基準の適用が当社の経営成績及び財政状態に与える影響はありません。詳細については、注7に記載しております。

注2 投資

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における連結貸借対照表の短期投資及び投資に含めている売却可能負債証券の取得原価、未実現利益及び損失、公正価値は以下のとおりであります。

	(単位 百万円)							
	第122期 2022年12月31日				第123期第1四半期 2023年3月31日			
	取得原価	総未実現 利益	総未実現 損失	公正価値	取得原価	総未実現 利益	総未実現 損失	公正価値
短期投資：								
社債	9,277	35	11	9,301	4,771	22	7	4,786
投資：								
社債	4,850	—	65	4,785	4,932	6	31	4,907
合計	14,127	35	76	14,086	9,703	28	38	9,693

2023年3月31日現在における連結貸借対照表の短期投資及び投資に含めている売却可能負債証券の満期別情報は以下のとおりであります。

	(単位 百万円)
	公正価値
1年以内	4,786
1年超5年以内	4,907
合計	9,693

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における持分証券に係る未実現及び実現損益は以下のとおりであります。

	(単位 百万円)	
	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
持分証券の当期の損益合計	△2,584	3,541
持分証券の売却による当期の実現損益	12	6
3月31日現在保有している持分証券の未実現損益	△2,596	3,535

容易に算定可能な公正価値がない市場性のない持分証券の帳簿価額は、2022年12月31日及び2023年3月31日現在で6,808百万円、6,853百万円であります。第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における減損または観察可能な価格の変動による調整に重要性はありません。

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における取得日から満期日までが3ヶ月超の定期預金はそれぞれ1,604百万円、3,088百万円であり、連結貸借対照表の短期投資に含めております。

注3 売上債権

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における売上債権は、以下のとおりであります。

	(単位 百万円)	
	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
受取手形	30,535	25,742
売掛金	606,268	568,056
売上債権	636,803	593,798
信用損失引当金	△13,305	△13,176
合計	623,498	580,622

注4 棚卸資産

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における棚卸資産は、以下のとおりであります。

	(単位 百万円)	
	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
製品	486,826	520,107
仕掛品	253,026	267,568
原材料	68,460	71,157
合計	808,312	858,832

注5 有形固定資産

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における有形固定資産は、以下のとおりであります。

	(単位 百万円)	
	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
土地	275,261	275,691
建物及び構築物	1,760,058	1,793,142
機械装置及び備品	1,893,745	1,922,776
建設仮勘定	60,914	52,695
ファイナンスリース使用权資産	7,315	7,238
取得価額計	3,997,293	4,051,542
減価償却累計額	△2,962,228	△2,996,478
	1,035,065	1,055,064

四半期連結キャッシュ・フロー計算書に表示されている固定資産には、有形固定資産と無形固定資産を含めております。

注6 貸手のリース会計

リース収益情報は以下のとおりであります。リース収益は連結損益計算書の製品売上高に含まれております。

(単位 百万円)

	第122期第1 四半期 連結累計期間	第123期第1 四半期 連結累計期間
販売型リース及び直接金融リース収益		
リース開始時の収益	21,051	36,545
利息収益	4,611	5,742
販売型リース及び直接金融リース収益計	25,662	42,287
オペレーティングリース収益	7,337	9,317
変動リース収益	1,166	1,392
リース収益計	34,165	52,996

リース債権の内訳

リース債権は、当社製品及び関連製品の販売から生じる販売型リース及び直接金融リースから構成されるファイナンスリースに係るものであります。これらの債権の回収期間は概ね1年から8年であります。

2022年12月31日及び2023年3月31日現在におけるリース債権の残高はそれぞれ416,370百万円、432,884百万円であり、第122期及び第123期第1 四半期連結累計期間におけるリース債権に対する信用損失引当金は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期第1 四半期 連結累計期間	第123期第1 四半期 連結累計期間
期首残高	3,791	5,596
引当金償却	△684	△467
当期繰入額	608	236
その他	454	170
期末残高	4,169	5,535

当社は、製品の販売に際し、顧客の信用履歴が適切であることを確認し、滞留期間、マクロ経済状況、顧客に対する法的手続の開始及び破産申請など、種々の情報に基づき債権計上先の信用状況を継続的にモニタリングしております。リース債権に対する信用損失引当金は、リスクの特徴が類似する債権ごとに過去の信用損失実績及び合理的かつ裏付け可能な予測に基づき評価しております。当社は、破産申請など顧客の債務返済能力がなくなったと認識した時点において、顧客ごとに信用損失引当金を積み増しております。2022年12月31日及び2023年3月31日現在における期日を経過したリース債権または顧客ごとに信用損失引当金を評価しているリース債権には重要性がありません。

リース債権の譲渡

当社は、外部の金融機関との間でリース債権を売却する債権譲渡契約を締結しています。当社は、この取引を基準書860「譲渡とサービシング」に基づき、売却として処理しています。第122期第1 四半期連結累計期間及び第123期第1 四半期連結累計期間において譲渡されたリース債権はありません。2022年12月31日及び2023年3月31日現在における未回収金額はそれぞれ13,077百万円、10,342百万円であります。なお、当該取引による現金収入は、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローのリース債権の減少(△増加)に含めております。当社は、引き続き金融機関に対して回収事務業務を提供していますが、2022年12月31日及び2023年3月31日現在における当該サービス負債の公正価値に重要性はありません。債務不履行が生じた際には、当社は一部遡求義務を負いますが、2022年12月31日及び2023年3月31日現在における当該遡求義務に重要性はありません。

注7 買入債務

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における買入債務は、以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
支払手形	82,702	80,571
買掛金	273,228	283,960
合計	355,930	364,531

当社は、第三者金融機関とサプライヤー・ファイナンス・プログラムを締結しており、サプライヤーと結んだ契約に基づいて、第三者金融機関に対して90日から180日後に支払いをしております。サプライヤーは第三者金融機関より、割引による早期支払いを自らの裁量で受けることができます。当社は、サプライヤー・ファイナンス・プログラムのための担保資産あるいは保証の提供はありません。また、当社はサプライヤーと第三者金融機関との間の契約に関与しておりません。2022年12月31日及び2023年3月31日現在におけるサプライヤー・ファイナンス・プログラムの債務金額は、それぞれ95,389百万円、96,232百万円であり、上記の買入債務に含まれております。

注8 短期借入金及び1年以内に返済する長期債務

金融サービスに係る短期借入金は、当社が保有するリース子会社において、顧客に対する融資をファイナンスするための銀行借入であります。2022年12月31日及び2023年3月31日現在における銀行借入による金融サービスに係る短期借入金は、それぞれ41,200百万円、41,400百万円であり、その他の銀行借入による短期借入金は200,012百万円、340,314百万円であります。

当社は2023年12月を契約期限とするリボルビングクレジットファシリティ契約による無担保の借入を行っております。2023年3月31日時点における借入残高は54,000百万円（借入枠54,000百万円）であります。利率は変動利率によるもので2023年3月31日時点における利率は0.21%であります。

注9 純資産

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における、連結貸借対照表の株主資本、非支配持分及び純資産の帳簿価額の変動は、以下のとおりであります。

第122期第1四半期連結累計期間

(単位 百万円)

区分	資本金	資本 剰余金	利益剰余金			その他の 包括利益 (損失) 累計額	自己株式	株主資本	非支配 持分	純資産 合計
			利益 準備金	その他の 利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
2021年12月31日現在残高	174,762	403,119	68,015	3,538,037	3,606,052	△151,794	△1,158,366	2,873,773	224,656	3,098,429
当社株主への配当金 (1株当たり55.00円)				△57,517	△57,517			△57,517		△57,517
非支配持分への配当金									△3,135	△3,135
利益準備金への振替		1,432	895	△2,327	△1,432					
包括利益										
1. 四半期純利益				45,975	45,975			45,975	3,818	49,793
2. その他の包括利益 (損失)										
-税効果調整後										
(1) 為替換算調整額						111,202		111,202	926	112,128
(2) 未実現有価証券評価損益						-		-		
(3) 金融派生商品損益						△1,178		△1,178	△4	△1,182
(4) 年金債務調整額						△284		△284	10	△274
四半期包括利益 (損失)								155,715	4,750	160,465
自己株式取得及び処分							△4	△4		△4
2022年3月31日現在残高	174,762	404,551	68,910	3,524,168	3,593,078	△42,054	△1,158,370	2,971,967	226,271	3,198,238

第123期第1四半期連結累計期間

(単位 百万円)

区分	資本金	資本 剰余金	利益剰余金			その他の 包括利益 (損失) 累計額	自己株式	株主資本	非支配 持分	純資産 合計
			利益 準備金	その他の 利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
2022年12月31日現在残高	174,762	404,838	64,509	3,664,735	3,729,244	62,623	△1,258,362	3,113,105	235,925	3,349,030
非支配持分との資本取引及びその他		23						23	10	33
当社株主への配当金 (1株当たり60.00円)				△60,931	△60,931			△60,931		△60,931
非支配持分への配当金									△3,271	△3,271
利益準備金への振替			119	△119	-					
包括利益										
1. 四半期純利益				56,410	56,410			56,410	5,320	61,730
2. その他の包括利益 (損失)										
-税効果調整後										
(1) 為替換算調整額						31,339		31,339	256	31,595
(2) 未実現有価証券評価損益						24		24		24
(3) 金融派生商品損益						302		302	△6	296
(4) 年金債務調整額						2,309		2,309	△132	2,177
四半期包括利益 (損失)								90,384	5,438	95,822
自己株式取得及び処分							△2	△2		△2
2023年3月31日現在残高	174,762	404,861	64,628	3,660,095	3,724,723	96,597	△1,258,364	3,142,579	238,102	3,380,681

注10 その他の包括利益（損失）

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における、その他の包括利益（損失）累計額の変動は以下のとおりであります。

（単位 百万円）

	第122期第1四半期 連結累計期間				
	為替換算 調整額	未実現 有価証券 評価損益	金融派生 商品損益	年金債務 調整額	合計
2021年12月31日現在残高	5,519	-	△894	△156,419	△151,794
組替前その他の包括利益 （損失）	111,202	-	△2,021	△878	108,303
その他の包括利益（損失） 累計額からの組替金額	-	-	843	594	1,437
純変動額	111,202	-	△1,178	△284	109,740
2022年3月31日現在残高	116,721	-	△2,072	△156,703	△42,054

（単位 百万円）

	第123期第1四半期 連結累計期間				
	為替換算 調整額	未実現 有価証券 評価損益	金融派生 商品損益	年金債務 調整額	合計
2022年12月31日現在残高	191,287	△34	△428	△128,202	62,623
組替前その他の包括利益 （損失）	31,352	45	△345	2,244	33,296
その他の包括利益（損失） 累計額からの組替金額	△13	△21	647	65	678
純変動額	31,339	24	302	2,309	33,974
2023年3月31日現在残高	222,626	△10	△126	△125,893	96,597

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における、その他の包括利益（損失）累計額から組み替えられた金額は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

その他の包括利益（損失）累計額からの組替金額（注）		
第122期 第1四半期 連結累計期間	第123期 第1四半期 連結累計期間	連結損益計算書に 影響する項目
為替換算調整額：		
—	△32	販売費及び一般管理費
—	10	法人税等
—	△22	非支配持分控除前四半期純利益
—	9	非支配持分帰属損益
—	△13	当社株主に帰属する四半期純利益
未実現有価証券評価損益：		
—	△26	その他—純額
—	5	法人税等
—	△21	非支配持分控除前四半期純利益
—	—	非支配持分帰属損益
—	△21	当社株主に帰属する四半期純利益
金融派生商品損益：		
1,144	908	売上高
△311	△255	法人税等
833	653	非支配持分控除前四半期純利益
10	△6	非支配持分帰属損益
843	647	当社株主に帰属する四半期純利益
年金債務調整額：		
883	236	その他—純額
△163	4	法人税等
720	240	非支配持分控除前四半期純利益
△126	△175	非支配持分帰属損益
594	65	当社株主に帰属する四半期純利益
組替金額合計		
1,437	678	
—税効果及び非支配持分調整後		

(注) 金額の増加（減少）は連結損益計算書における利益の減少（増加）を示しております。

注11 収益

当社は、主にプリンティングの製品のサービスから生じる未請求債権を契約資産として計上しております。契約資産は、契約条件に基づいて請求されるときに売上債権に振り替えられており、契約資産にかかる期首残高と期末残高の差額は主に、履行義務を充足する時点と顧客への請求時点が異なることに起因しております。2022年12月31日及び2023年3月31日現在における契約資産は、それぞれ、39,251百万円、40,082百万円であり、連結貸借対照表の前払費用及びその他の流動資産に含めております。

当社は、通常、履行義務を充足した時点で、顧客に対して取引価格を請求し、その後短期間で回収しております。また、当社は、一部のプリンティングの製品及びメディカルの製品のサービス契約並びに一部のインダストリアル製品の販売において、対価の一部を前受金として回収する場合があります。顧客から受領した対価のうち既に収益として認識した額を上回る部分を、財またはサービスの移転による履行義務を充足するまで繰延収益として計上しております。2022年12月31日及び2023年3月31日現在における繰延収益は、それぞれ、141,840百万円、147,138百万円であり、連結貸借対照表のその他の流動負債及びその他の固定負債に含めております。2022年12月31日時点の繰延収益のうち、60,046百万円を第123期第1四半期連結累計期間に収益として認識しております。

製品の販売から生じる未充足の履行義務は、主に一部のインダストリアル製品の販売から発生しており、2023年3月31日現在において、151,236百万円であります。このうち、72%は1年以内に、25%は2年以内に収益認識され、残りの3%は3年以内に収益認識されると見込んでおります。サービス契約の大部分については、請求金額に基づき収益計上する実務上の簡便法を適用しているか、または予想される当初の契約期間が1年未満であることから、未充足の履行義務に関する注記を省略しております。なお、当初の契約期間が1年を超えるプリンティング製品及びメディカル製品の固定契約から生じるサービス収益は、第123期第1四半期連結累計期間において26,920百万円であり、2023年3月31日現在における平均残存契約年数は約2年となっております。

セグメント別、製品別、及び地域別に細分化した収益については、注19に記載しております。

注12 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における基本的及び希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算上の分子及び分母の調整表は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
当社株主に帰属する四半期純利益	45,975	56,410
希薄化後当社株主に帰属する 四半期純利益	45,974	56,408

(単位 株式数)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
普通株式の期中加重平均株式数	1,045,630,287	1,015,372,148
希薄化効果のある証券の影響： ストックオプション	286,396	353,577
希薄化後普通株式の期中加重平均株式数	1,045,916,683	1,015,725,725

(単位 円)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益：		
基本的	43.97	55.56
希薄化後	43.96	55.53

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間において、当社が付与しているストックオプションは希薄化効果を有しております。

注13 金融派生商品とヘッジ活動

リスク管理方針

当社は国際的に事業を営み、外国為替レートの変動リスクにさらされております。当社が保有しております金融派生商品は、主にこれらのリスクを軽減するための先物為替契約であります。当社は、外国為替レートリスクの変化を継続的に監視すること及びヘッジ機会を検討することによって、外国為替レートリスクを評価しております。当社はトレーディング目的のための金融派生商品を保有または発行していません。また、当社は金融派生商品の契約相手による契約不履行の場合に生ずる信用リスクにさらされております。契約相手は国際的に認知された金融機関がほとんどで、当社はそれらの財政状態を勘案しており、契約も多数の主要な金融機関に分散されておりますので、そのようなリスクは小さいと考えております。

外国為替レートリスク管理

当社は国際的な事業により、外国為替レート変動リスクにさらされております。米ドルやユーロといった外貨による売上により生じる外国為替レートリスクを管理するために、当社は先物為替契約を締結しております。これらの契約は主に、外貨建のグループ会社間の予定売上取引及び売上債権に関する外国為替レート変動リスクをヘッジするために利用されております。当社はリスク管理方針に基づき、グループ会社間の予定売上取引から生じる外国為替レート変動リスクの一部を、主に3ヶ月以内に満期が到来する先物為替契約を利用することによりヘッジしております。

キャッシュ・フローヘッジ

グループ会社間の予定売上取引に係る先物為替契約等、キャッシュ・フローヘッジとして指定された金融派生商品の公正価値の変動は、その他の包括利益（損失）累計額として認識されます。これらの金額は、ヘッジ対象が収益または費用として認識された期において、損益に振り替えられます。2023年3月31日現在のその他の包括利益（損失）累計額は、今後12ヶ月の間に売上高として認識されると予想しております。また、ヘッジ対象である予定売上取引が発生した時点でヘッジ会計は中止し、それ以降に生じる公正価値の変動はただちに収益または費用として認識されます。

ヘッジ指定されていない金融派生商品

当社は、主に外貨建資産から生じる為替差損益を相殺するために先物為替契約を締結しております。これらの先物為替契約はヘッジ会計を適用するために必要とされているヘッジ指定をしておりませんが、経済的な観点からはヘッジとして有効と判断しております。ヘッジ指定していない先物為替契約の公正価値の変動はただちに収益または費用として認識されます。

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における先物為替契約の残高は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
外貨売却契約	149,080	155,946
外貨購入契約	26,224	29,838

連結貸借対照表に含まれる金融派生商品の公正価値

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における金融派生商品の公正価値は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

ヘッジ指定の金融派生商品	科目	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
資産：			
先物為替契約	前払費用及び その他の流動資産	176	67
負債：			
先物為替契約	その他の流動負債	416	388

(単位 百万円)

ヘッジ指定外の金融派生商品	科目	第122期 2022年12月31日	第123期第1四半期 2023年3月31日
資産：			
先物為替契約	前払費用及び その他の流動資産	2,539	323
負債：			
先物為替契約	その他の流動負債	846	1,279

金融派生商品の連結損益計算書への影響

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における金融派生商品の連結損益計算書への影響は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

ヘッジ指定の 金融派生商品	第122期第1四半期 連結累計期間		
	その他の包括利益（損失） に計上された損益	その他の包括利益（損失）累計 額から損益への振替額	
キャッシュ・フロー			
ヘッジ	計上金額	科目	計上金額
先物為替契約	△2,836	売上高	△1,144

(単位 百万円)

キャッシュ・フロー	第123期第1四半期 連結累計期間		
	その他の包括利益（損失） に計上された損益	その他の包括利益（損失）累計 額から損益への振替額	
ヘッジ	計上金額	科目	計上金額
先物為替契約	△507	売上高	△908

(単位 百万円)

ヘッジ指定外の 金融派生商品	第122期第1四半期 連結累計期間		第123期第1四半期 連結累計期間	
	金融派生商品より認識された損益		金融派生商品より認識された損益	
	科目	計上金額	科目	計上金額
先物為替契約	その他－純額	△5,925	その他－純額	△2,254

注14 借手のリース会計

リースに係る連結損益計算書情報は以下のとおりであります。

なお、リース費用は連結損益計算書の売上原価、販売費及び一般管理費に含まれております。

(単位 百万円)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
オペレーティングリース費用	11,096	11,573
短期リース費用	3,570	3,972
その他リース費用	48	66
合計	14,714	15,611

リースキャッシュ・フローの内訳

リースに係る連結キャッシュ・フロー計算書情報は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
リース負債測定に含まれる現金支払総額		
オペレーティングリースに係る営業キャッシュ・フロー	10,343	10,922
リース負債と交換で取得した使用权資産に係る非資金取引		
オペレーティングリース	15,292	7,821

将来リース料の年度別内訳

2023年3月31日現在におけるオペレーティングリースに関する将来の最低支払リース料の年度別金額は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

1年内	37,095
2年	27,040
3年	19,557
4年	13,953
5年	9,061
それ以降	17,887
最低支払リース料計	124,593
利息費用	△7,252
合計	117,341

注15 コミットメント及び偶発債務

コミットメント

2023年3月31日現在における、設備投資の発注残高及び部品と原材料の発注残高はそれぞれ、91,086百万円、268,431百万円であります。

保証債務

当社は、オペレーティングリースとして処理されるリース契約に基づき、営業所及びその他の施設を使用しております。リース契約に基づく、原状回復を目的とした差入保証金は、2022年12月31日及び2023年3月31日現在においてそれぞれ10,086百万円、10,048百万円であり、連結貸借対照表上、長期債権に含まれております。

当社は、従業員及び関係会社等について、債務保証を行っております。従業員に関する債務保証は、主に住宅ローンに対するものであります。関係会社等に関する債務保証は、リース債務及び銀行借入金に対するものであり、それらの会社における資金調達を容易にするためのものであります。

契約期間中に従業員及び関係会社等が債務不履行に陥った場合、当社は支払義務を負います。債務保証の契約期間は、従業員の住宅ローンについては1年から12年であり、関係会社等のリース債務及び銀行借入金については1年から6年であります。2023年3月31日現在において、債務不履行が生じた場合に当社が負う割引前の最高支払額は、1,496百万円であります。2023年3月31日現在において、これらの債務保証に関して認識されている負債の金額には重要性はありません。

また当社は、ある一定期間において、当社の製品及びサービスに対する品質保証型の製品保証を提供しております。製品保証費は収益を認識した時点で連結損益計算書上、販売費及び一般管理費として計上しており、製品保証引当金の見積りは過去の実績に基づいております。製品保証引当金は連結貸借対照表上、未払費用に含めており、第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における製品保証引当金の変動は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
期首残高	16,949	20,887
当期増加額	7,711	9,137
当期減少額(目的使用)	△7,529	△8,777
その他	△91	△158
期末残高	17,040	21,089

訴訟事項

当社は、通常の事業活動から生じる、種々の要求及び法的行為にさらされております。当社は、損失の発生の可能性が高く、かつ、損失額を合理的に見積ることができる場合に、引当金を計上しております。当社は、少なくとも四半期に一度当該引当金を検討し、交渉、和解、判決、弁護士の助言及び特定の案件に関連したその他の情報及び事象の影響を反映して、当該引当金を修正しております。訴訟は本来的に予測が困難であります。当社は、経験上、これらの案件における損害賠償請求額は当社の潜在的な負債を必ずしも示唆するものではないと考えており、これらの案件から発生する可能性のある損失は、当社の連結上の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに重要な影響を与えることはないと考えております。

注16 金融商品の公正価値及び信用リスクの集中

金融商品の公正価値

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における、当社の金融商品の公正価値は以下のとおりであります（△負債）。

現金及び現金同等物、売上債権、長期債権、短期借入金、買入債務及び未払費用は連結貸借対照表計上額が公正価値に近似しており、下記の表には含めておりません。また投資に関しては注2及び注17に、先物為替契約に関しては注13にて記載しておりますので、下記の表には含めておりません。

（単位 百万円）

	第122期 2022年12月31日		第123期第1四半期 2023年3月31日	
	計上金額	公正価値	計上金額	公正価値
長期債務 (1年以内に返済される債務を含む)	△54,205	△54,205	△54,192	△54,192

上記の金融商品は、下記の前提と方法に基づいてその公正価値を算定しております。

長期債務

長期債務の公正価値は借入ごとに将来のキャッシュ・フローから類似の満期日の借入金に対して適用される期末における市場での借入金利を用いて割り引いて算定した現在価値に基づいて算定しており、レベル2に分類しております。レベルの区分については、注17に記載しております。

見積公正価値の前提について

公正価値の見積りは当該金融商品に関連した市場価格情報及びその契約内容を基礎として期末の一時点で算定されたものであります。これらの見積りは実質的に当社が行っており、不確実性及び見積りに重要な影響を及ぼす当社の判断を含んでおり、精緻に計算することはできません。このため、想定している前提条件の変更により当該見積りは重要な影響を受ける可能性があります。

信用リスクの集中

2022年12月31日及び2023年3月31日現在において、特定顧客に対し売上債権の10%を超える信用リスクの集中はありません。

注17 公正価値の開示

公正価値は、その資産または負債に関する主要なまたは最も有利な市場において測定日における市場参加者の間の秩序ある取引により資産を売却して受け取るであろう価格、または負債を移転するために支払うであろう価格と定義しております。公正価値の測定に使用されるインプットの優先順位を付ける公正価値の階層の3つのレベルは以下のとおりであります。

レベル1－活発な市場における同一資産・負債の市場価格

レベル2－活発な市場における類似資産・負債の市場価格、活発ではない市場における同一または類似資産・負債の市場価格、観察可能な市場価格以外のインプット及び相関関係またはその他の方法により観察可能な市場データから主として得られたまたは裏付けられたインプット

レベル3－1つまたは複数の重要なインプットが観察不能で、市場参加者が価格決定で使用する仮定に関して報告企業自身の仮定を使用する評価手法から得られるインプット

経常的に公正価値で測定される資産及び負債

2022年12月31日及び2023年3月31日現在における経常的に公正価値で測定される資産及び負債は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期 2022年12月31日				第123期 2023年3月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	資産:							
現金及び現金同等物	-	627	-	627	-	500	-	500
短期投資:								
売却可能負債証券:								
社債	-	9,301	-	9,301	-	4,786	-	4,786
投資:								
売却可能負債証券:								
社債	-	4,785	-	4,785	-	4,907	-	4,907
投資信託等	255	383	-	638	262	435	-	697
株式	21,770	-	-	21,770	25,470	-	-	25,470
前払費用及び その他流動資産:								
金融派生商品	-	2,715	-	2,715	-	390	-	390
資産合計	22,025	17,811	-	39,836	25,732	11,018	-	36,750
負債:								
その他の流動負債:								
金融派生商品	-	1,262	-	1,262	-	1,667	-	1,667
負債合計	-	1,262	-	1,262	-	1,667	-	1,667

レベル1の投資は、主に国内株式であり、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価しております。

レベル2の資産及び負債は、主に現金及び現金同等物、投資及び短期投資に含まれる社債、金融派生商品です。現金及び現金同等物、投資及び短期投資に含まれる社債は、活発でない市場における同一資産の市場価格、または取引相手方または第三者から入手した相場価格により評価しております。金融派生商品は、先物為替契約によるもので、取引相手方または第三者から入手した相場価格に基づき評価され、マーケット・アプローチに基づく外国為替レート及び金利などの観察可能な市場インプットを使用した価格モデルに基づき定期的に検証しております。

非経常的に公正価値で測定される資産及び負債

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間において、非経常的に公正価値で測定された重要な資産及び負債はありません。

注18 損益等の補足説明

為替差損益

先物為替契約を含む外貨建取引、外貨建の資産及び負債の換算から生じる為替差損益は、連結損益計算書の営業外収益及び費用のその他一純額に含めております。第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における為替差損益は、それぞれ14,008百万円の損失、7,750百万円の損失であります。

広告宣伝費

広告宣伝費は発生時に費用として計上しており、第122期及び第123期第1四半期連結累計期間においてそれぞれ8,079百万円、9,045百万円であり、連結損益計算書の販売費及び一般管理費に含めております。

発送費及び取扱手数料

発送費及び取扱手数料は、第122期及び第123期第1四半期連結累計期間においてそれぞれ12,930百万円、16,129百万円であり、連結損益計算書の販売費及び一般管理費に含めております。

期間純年金費用

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における期間純年金費用の内訳は以下のとおりであります。期間純年金費用のうち、勤務費用は、連結損益計算書の売上原価または営業費用に含めており、勤務費用以外の要素は、連結損益計算書の営業外収益及び費用のその他一純額に含めております。

(単位 百万円)

	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
勤務費用	8,044	6,570
利息費用	3,082	5,589
年金資産の期待運用収益	△9,817	△8,791
過去勤務債務の償却費用	△2,051	△1,939
数理差異の償却費用	2,934	2,175
合計	2,192	3,604

現金同等物

売却可能負債証券に分類される取得日から3ヶ月以内に満期となる一部の負債証券は、2022年12月31日及び2023年3月31日現在においてそれぞれ627百万円、500百万円であり、連結貸借対照表の現金及び現金同等物に含めております。これらの負債証券の公正価値は取得原価と近似しております。

注19 セグメント情報

当社は、組織構造及び業績評価並びに資源配分を行うために当社のマネジメントが管理している情報に基づき、プリンティングビジネスユニット、イメージングビジネスユニット、メディカルビジネスユニット、インダストリアルビジネスユニットの4つの報告セグメントと、その他及び全社に区分しております。

当社は、内部管理体制の変更に基づき、2022年第4四半期連結累計期間より、セグメント区分の名称及び構成を従来のインダストリアルその他ビジネスユニット、消去又は全社から、インダストリアルビジネスユニット、その他及び全社、消去に変更しております。また、2023年第1四半期連結累計期間より、従来その他に含めて表示していた一部のビジネスを、プリンティングビジネスユニットに含めて表示しております。これに伴い、2022年第1四半期連結累計期間についても組み替えて表示しております。

セグメントごとの主要製品は以下のとおりであります。

- ・プリンティングビジネスユニット：オフィス向け複合機、ドキュメントソリューション、レーザー複合機、レーザープリンター、インクジェットプリンター、イメージスキャナー、電卓、デジタル連帳プリンター、デジタルカットシートプリンター、大判プリンター
- ・イメージングビジネスユニット：レンズ交換式デジタルカメラ、交換レンズ、コンパクトデジタルカメラ、コンパクトフォトプリンター、MRシステム、ネットワークカメラ、ビデオ管理ソフトウェア、映像解析ソフトウェア、デジタルビデオカメラ、デジタルシネマカメラ、放送機器、プロジェクター
- ・メディカルビジネスユニット：CT装置、超音波診断装置、X線診断装置、MRI装置、検体検査装置、デジタルラジオグラフィ、眼科機器
- ・インダストリアルビジネスユニット：半導体露光装置、FPD露光装置、有機ELディスプレイ製造装置、真空薄膜形成装置、ダイボンダー
- ・その他：ハンディターミナル、ドキュメントスキャナー

セグメントの会計方針は概ね当社の四半期連結財務諸表に用いている会計方針と同じであります。当社は、税引前当期純利益に基づいて業績の評価及び資源の配分を行っております。

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間におけるセグメント情報は以下のとおりであります。

(単位 百万円)

	第122期第1四半期連結累計期間					消去	連結
	プリンティング	イメージング	メディカル	インダストリアル	その他及び 全社		
売上高							
外部顧客向け	506,068	156,976	118,103	66,638	31,565	—	879,350
セグメント間取引	1,135	225	95	1,842	17,207	△20,504	—
計	507,203	157,201	118,198	68,480	48,772	△20,504	879,350
売上原価及び営業費用	454,619	143,840	111,877	56,279	57,651	△21,056	803,210
営業利益	52,584	13,361	6,321	12,201	△8,879	552	76,140
営業外収益及び費用	2,852	366	96	116	△6,354	△5,519	△8,443
税引前四半期純利益	55,436	13,727	6,417	12,317	△15,233	△4,967	67,697

(単位 百万円)

	第123期第1四半期連結累計期間					消去	連結
	プリンティング	イメージング	メディカル	インダストリアル	その他及び 全社		
売上高							
外部顧客向け	556,704	192,359	130,857	58,379	32,826	—	971,125
セグメント間取引	1,449	64	198	3,682	17,614	△23,007	—
計	558,153	192,423	131,055	62,061	50,440	△23,007	971,125
売上原価及び営業費用	507,535	155,167	124,175	54,643	68,491	△23,361	886,650
営業利益	50,618	37,256	6,880	7,418	△18,051	354	84,475
営業外収益及び費用	2,485	236	42	124	3,525	△3,353	3,059
税引前四半期純利益	53,103	37,492	6,922	7,542	△14,526	△2,999	87,534

セグメント間の取引は一般取引と同様の価格で行われております。特定のセグメントに直接関連しない費用は、最も適切で利用可能な指標に基づき各セグメントに配分しております。全社費用には、本社部門に属する研究開発費及び東芝メディカルシステムズ(株)(現キヤノンメディカルシステムズ(株))買収に伴う取得価額配分により認識した無形固定資産の償却費等が含まれております。

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における各ビジネスユニットの外部顧客向け製品別売上高の内訳情報は、以下のとおりであります。

	(単位 百万円)	
	第122期第1四半期 連結累計期間	第123期第1四半期 連結累計期間
プリンティング		
オフィス複合機	115,962	143,430
オフィスその他	77,932	89,378
オフィス	193,894	232,808
レーザープリンター	149,333	150,293
インクジェットプリンター他	89,630	86,674
プロシューマー	238,963	236,967
プロダクション	73,211	86,929
合計	506,068	556,704
イメージング		
カメラ	101,312	109,965
ネットワークカメラ他	55,664	82,394
合計	156,976	192,359
メディカル		
診断機器	118,103	130,857
インダストリアル		
光学機器	48,755	40,020
産業機器	17,883	18,359
合計	66,638	58,379
その他及び全社	31,565	32,826
連結	879,350	971,125

当社は、内部管理体制の変更に基づき、2022年第4四半期連結累計期間より、製品カテゴリー区分を変更し、従来その他に含まれていた一部製品売上を露光装置に追加し、光学機器として表示しております。また、2023年第1四半期連結累計期間より、従来オフィス複合機とその他に含めて表示していた一部のビジネスを、インクジェットプリンター他に含めて表示しております。これに伴い、2022年第1四半期連結累計期間についても組み替えて表示しております。

第122期及び第123期第1四半期連結累計期間における地域別セグメント情報は以下のとおりであります。
(単位 百万円)

	第122期第1四半期連結累計期間				
	日本	米州	欧州	アジア・ オセアニア	計
売上高	220,558	252,670	217,680	188,442	879,350

	第123期第1四半期連結累計期間				
	日本	米州	欧州	アジア・ オセアニア	計
売上高	228,751	295,222	253,998	193,154	971,125

売上高は顧客の仕向地別に分類しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年5月11日

キヤノン株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 政之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高居 健一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 進

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高木 秀明

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキヤノン株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年1月1日から2023年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記事項について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第95条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項1参照）に準拠して、キヤノン株式会社及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項1参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項1参照）に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項1参照）に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項1参照）に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※ 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。